

ガバナー一月信 vol.12



ロータリーで良いことをしよう



■ガバナーメッセージ	1
■2021-22年度地区研修・協議会の御礼	2
■長岡RC創立70周年記念式典 開催を振り返って	3
■ロータリーショーケース	4-14
■主要行事予定・新入会員紹介・訃報	15
■会員数及び出席	16
■コーディネーターNEWS	17-18
■ハイライトよねやま	19-20



良い奉仕活動を実践しましょう！

国際ロータリー第2560地区

2020-21年度

ガバナー 佐藤 真（村上岩船）

田園に広がる眩しい新緑と清々しい初夏の風が心地よい季節となりました。私のガバナーとしての年度は、COVID-19感染拡大と共にスタートしましたが、共に終息を告げてはくれないようです。任期も今月を残すのみとなりましたが、最後まで誠心誠意務めさせていただきますので、宜しくお願いいたします。

今月、6月は「ロータリー親睦活動月間」です。例会や親睦事業から親交が深まり、そして自己研鑽を積み、その賜物として奉仕の心が育まれると思いますが、ロータリー活動の根源である例会がCOVID-19の影響で制限されています。回数の削減や時短、そして休会、なにより食事時の会話制限やお持ち帰りなど、今日までロータリーの親睦を育んできた活動が叶わない現状が続いています。その傍らでオンライン例会や、参加者が対面かオンラインを選び、双方に対応可能なハイブリッド例会など、新しい機会の扉を開いているクラブも見受けられます。ただ、新方式には馴染めない会員も居る事も事実であり、引き続き善処してゆかなければなりません。私のガバナー年度はCOVID-19に多大な影響を受けましたが、ぜひ次年度は私たちの重要な価値観である“四つのテスト”にマッチした「ロータリーの親睦活動」を皆さまに考えていただきたいと願っています。

今年度はPETSと地区研修・協議会をDVDと紙資料による研修とし、地区大会は会場人数を限定してライブ配信を利用したハイブリット方式とすべてが初めての試みでした。皆さまのご協力により無事実施することができました。また地区大会記念ゴルフ大会では約400名にも及ぶロータリアンの皆さまにご参加いただき感激した次第です。

ガバナー公式訪問も当初どうなるかと心配でしたが、直接訪問18クラブ、オンライン訪問38クラブと、ガバナー補佐やクラブ会長・幹事のおかげで全クラブ訪問できて安心しました。ただ、終盤にかけて退会者が増えていることがとても気掛かりです。ぜひ、今一度退会防止にご協力願います。

今年度ホルガー・クナークRI会長のテーマ「ロータリーは機会の扉を開く」、そして私の地区運営方針「ロータリーで良いことをしよう」によって導かれる、“ロータリーで機会の扉を開き良い奉仕活動を実践すること”はこれからもロータリーが存続する限り続く活動だと思っています。皆さまのいつも変わらぬご理解とご協力に感謝申し上げます。



地区研修・協議会の御礼

2021-22年度

地区研修・協議会実行委員長
浅妻 信（新潟中央）

2021-22年度「地区研修・協議会」が去る5月22日、ウィルス禍のなか、ハイブリッド方式で開催されました。4月に新潟市で発令された特別警報によりメイン会場の参加者も大幅に縮減させていただきましたが、それでもリアル、オンラインで例年同様、延べ600名近くのご登録をいただき、誠に感謝しております。

全体会議においては、大谷地区研修リーダーより本協議会での目的について、高尾ガバナーエレクトより国際協議会報告・次年度地区運営方針についてそれぞれお話をいただきました。続いて、残念ながらこちらでもオンラインでの講話となりましたが、RLI日本支部ファシリテーター委員長中村靖治様から「ロータリーを語ろう」と題してご講演をいただきました。高尾年度の運営方針に沿った内容で、過去のRI会長の名言を中心に、参加者それぞれがロータリーとはなにかを学ぶ貴重な場になったと思います。午後は、7会場に分かれたセッションが開催され、セッションリーダーの創意工夫の下、有意義な研修が行われたと伺っております。その後、全体会議において各セッションリーダーからの発表と大谷地区研修リーダーからの講評をいただき無事に終了する事ができました。

今回、メイン会場と参加者の皆様の自宅等を結ぶ新しい様式での開催となりましたが、研修のライブ感が感じられるとともに、自宅等でじっくりと見られるため非常に良かったという声も寄せられています。ロータリーの中核をなす一つである親睦の場がないのは残念でしたが、メリットも多くあったのではないかと思います。

最後になりますが、度重なる変更等により関係者の皆様に迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、御支援・御協力を頂いたことを心から御礼申し上げます。





長岡RC創立70周年記念式典開催を振り返って

長岡ロータリークラブ
会長 米山 孝之

令和3年4月24日(土)に長岡RC創立70周年記念式典を開催いたしました。

コロナ禍ではございましたが、佐藤真国際ロータリー第2560地区ガバナーを始め総勢60数名の方々にご出席をいただき、無事に終えることができたことに安堵しております。

上記式典開催までの経緯を振り返りますと、最初に70周年検討会を実施したのが、今から約一年半前の令和元年10月でした。60周年の年には東日本大震災が発生したことから、規模を縮小して記念式典を開催いたしました。そのため、70周年は大規模に祝おうというのが検討会参加者の多くの認識だったと記憶しております。その後、令和2年1月に国内で初めてのコロナが確認されたことから、70周年については、進捗が見られない状況が続きました。年度が替わり7月に入ってから、実行委員会の中の各小委員会の委員や開催日までの具体的な準備計画が決まり、正式に予算も組まれました。10月には、悠久山の整備を中心とした70周年記念事業の具体的な内容が決まり、記念式典の構成を、記念例会、記念講演、記念祝賀会の3部とすることにし、コロナに対する配慮から、招待者を、地区内の全RCの会長幹事とするのではなく、総勢100名程に制限して実施することを予定しておりました。しかし、12月下旬頃からコロナの感染者数が急拡大し始め、令和3年1月には2回目の緊急事態宣言が出されるに至ったことから、記念式典の構成、規模について再検討する必要にせまられました。再検討を行なった結果、なるべく時間を短縮するために記念講演を中止とし、また、飲食を伴う記念祝賀会も中止とすることで、記念式典の構成を記念例会のみとし、さらに、会員の家族及びOB会員を原則として招待しないとすることで、これまでの予定していたものに比し、より規模を縮小した記念式典とするという内容に変更いたしました。その後、コロナの感染者数が落ち着き始めたこともあり、記念例会の前に歓迎の演奏会を実施することとし、また、来賓の方々やご出席いただいた他クラブの皆様楽しんでいただくため、記念講演も実施するという内容に変更の上、当日を迎えるに至りました。

このように、コロナの影響から開催まで幾度となく内容を変更せざるを得ませんでした。長岡RC創立70周年記念式典を無事に終えることができたのは、ひとえにご出席いただいた皆様及び関係者の皆様のご協力があったからこそだと思っております。誠にありがとうございました。





COVID-19禍に思う

中条ロータリークラブ
2019-20年度幹事
小野 和英

COVID-19のパンデミックの宣言以来、感染者数の増減によって経済活動を含めた私たちの日常は揺り動かされています。

いつになったら日常を取り戻せるのでしょうか。私の心もとない知識の中、インフルエンザとの違いは無症状者が10%、致死率0.1%がインフルエンザ、COVID-19は無症状者が数%から60%余り、致死率は3~4%だったと思います。要は本人に感染症の意識がない人が町中を動き回るのでからこれは大変なことであり、症状がない人から感染しても重症化して亡くなる人がいることが怖いのです。

幾度となく押し寄せる感染者増減の波によって、中条RCも例会の隔週開催、短縮例会にするなどの状況にあります。

光明は、ついに始まったワクチン接種で、順調とは言えませんが感染拡大、重症化の抑制の力になると期待しております。

現状はまだまだ厳しい戦いですが、顔を合わせ会員相互の情報交換と親睦を図るという大きな魅力を取り戻せる日がそこまで来ていると期待しております。

2019-20年度後半は、計画していた活動や行事の遂行が出来ずに今年度にバトンを渡すというとても残念な年度になりました。

特に、当クラブは50周年に東日本大震災のため開催を断念したと聞いており、今年度こそは60周年節目の式典の開催をと楽しみにしてまいりました。そんな中で先日、記念事業が遂行できたのはクラブの喜びです。

残念ですが、過ぎた日々は戻ることはありません。明日はあります。幾多の困難を克服してきたように、人類無限の可能性を信じ、またの機会に皆様と笑える日を待ちたいと思います。



健康で元気 (会員、家族が元気になる活動)

中条胎内ロータリークラブ
会長 高橋 猪志雄

COVID-19禍について、佐藤年度の地区イベント等は、WEBと思い、年度のスタートから、WEB例会と卓話以外は、短縮例会にしスタート致しました。最初は上手くいかなく苦勞致しましたが、徐々に慣れて、今では抵抗なく例会進行しています。

1月に中条RCと共同で、検温付消毒器と演台のアクリル板の設置を致しました。中々終息しない感染に、これから例会での食事を最初は弁当にして、持ち帰りが出来る様にしましたが、感染が止まらない中、持ち帰りに変更、例会場での食事は全て禁止にいたしました。現在では、メンバーの皆様には 大変なご苦勞をおかけしている中、この度食事を弁当一食分の食事券(金券)を発行させていただき、ホテルのレストランにて食事が出来、テイクアウトも可能にして、皆さんに好きな食事を用意を致しました。COVID-19感染予防対策ガイドラインを12月に作成して、メンバー皆さんの安全、安心を確保致し、要望アンケートBOXを設置致しました。

社会奉仕では、12月には、各地域(神林、関川、胎内、荒川)の学童保育所にジョイントマットの寄贈、(冬の寒い遊戯場の床に少しでも暖かく元気良く遊んで頂ければと思います。)オリンピックの年でしたので、クラブでオリンピック観戦を企画して前年度からチケット購入で準備をしてきましたが、延期になり残念ながら、1月に東京オリンピック観戦旅行、完全中止に致しました。

社会奉仕最大の事業でした、リレーマラソン大会。本来であればオリンピックに因んでスポーツの年度で最高の企画と思い望み、去年の11月に予定しましたが、残念ならこのコロナ禍の中、やるべきか、開催できるのかギリギリまで協議して内容を変え、それでも13組120名の参加者エントリーして頂き盛大に開催出来た事は、本当に良かったです。

私たちのチーム名は、RCオープンズと付け国際ロータリーRI会長ホルガー・クナーク氏のテーマ「ロータリー オープンズオポチュニティーズ」から取りました。私たちのあらゆる活動が、どこかで、誰かのために機会の扉を開けてくれます。

このマラソンを通して改めて、家族の絆・友人の絆・職場の皆と助け合い繋いだのは、心の絆でした。次回開催するならば是非参加したいと思います。本当にありがとうございました。」とお言葉をいただきRCメンバーも嬉しく思いました。また、COVID-19チャリティーと言う事で、胎内市総合体育館、荒川総合体育館、関川村民会館に温度計付き非接触手指消毒器を贈りました。これによりスポーツ施設を利用する多くの方が感染リスクが低くなると思っています。





COVID-19禍で進化する クラブ運営と多様性

新潟南ロータリークラブ
会長 片桐 豊

COVID-19禍における、我々新潟南ロータリークラブの活動方針及び近況報告をさせていただきます。

まずは感染防止を徹底した環境を作りました。受付にて消毒と検温を徹底し、最小限に縮小した理事役員会、昼例会を隔週にし(隔週で3月末まで会員へメール・FAXを配信する『書面例会』を開催)、夜例会・各委員会の懇親会・同好会等の活動を停止致しました。

COVID-19禍の社会奉仕としては、青少年奉仕委員会が中心となり、児童自立支援施設「新潟学園」さんへ例年同様に、運動会・学園祭・クリスマス会(ケーキ贈呈)等の寄付・支援活動を行いました。また、同委員会からの提案により、この春より次のステージ(高校・専門学校等)へ進学する子供達への更なる支援活動も決定し、地域に密着した奉仕活動を実施しております。更に今年度最後の6/30例会をもって、例会通算3000回となることから、記念事業(社会奉仕)の一環として、新潟市社会福祉協議会 地域福祉課を通じ、当クラブより「子ども食堂」へお米250袋(1袋5kg)合計1250kgを寄付・贈呈させて頂くことになりました。

また、この状況下における会員増強及びクラブ奉仕としては退会者を出さない運営対策として、前期会費半額・後期3割減7割の会費にしました。新入会員獲得につきましては、全会員協力の下、会員増強委員会が中心となり、新入会員の増員・増強を目的とした定時連絡会を開催し、常に情報収集・状況確認を行っております。これにより7月会員96名でのスタートが、現在110名となり、更に今現在でも数名の入会希望を頂いている状況です。そして、新入会員の退会者を防ぐ入会後のフォローにも注力しており、入会3年未満の会員からなる「若い根っこの会」を通して、新入会員間の交流と同時に先輩会員を講師(ベテラン会員の活用)に迎え、先輩会員とも交流を深めることで例会・行事等へ積極的に参加しやすい足場が築かれております。以前のクラブ現況アンケートにもお答えしましたが、これにより第2560地区戦略計画が掲げる4つの主な優先事項(プロセス)を網羅し、強いクラブ運営が実践されていると思います。

以上を持ちまして、COVID-19禍における新潟南ロータリークラブの活動報告とさせていただきます。COVID-19禍に負けず、皆さんお互いに頑張っって何とか一緒に乗り切り行って行きましょう。



COVID-19禍に思う事

新潟北ロータリークラブ
会長 内田 仁

去年7月から、ホルガー・クナークRI会長のテーマ、“Rotary Opens Opportunities”「ロータリーは機会の扉を開く」、RI第2560地区 佐藤 真ガバナーの地区運営方針「ロータリーで良いことをしよう」と本年度掲げられたテーマを受けまして、当クラブの活動方針を「輝こうロータリークラブ！」と掲げ、今年度様々な思いを秘めてスタート致しました。

しかし、COVID-19感染症拡大の中、クラブ内外での様々な交流・活動が中止や延期になり非常に残念に思います。未だ終息が見えない状況下の中、例会会場はホテルの方々に御協力を頂き感染症対策を行いました。Zoomを活用したオンライン例会も開催して居ります。また最近では例会の時間を短縮して飲食を取らずにお弁当の持ち帰りでの夜例会を開催しましたが、嬉しい事に昼間の例会よりもたくさんの会員の方が参加してくれました。

クラブ内では現・次・次々年度の会長・幹事の少人数で戦略会議を行い多方面に渡って見直しを行ったり、勉強する機会を設けました。

社会奉仕活動では、長年支援させて頂いている「日本ALS協会新潟県支部 ジャルサ新潟の会」への支援金を増額して6月の例会で贈呈致します。ALS(筋委縮性側索硬化症)患者さんの支援コンサートには当クラブのグリークラブ(合唱クラブ)も参加して居りましたが今は、COVID-19禍でグリークラブの練習も出来ない状態です。6月の例会には、ALS患者さんは参加出来ませんが今後も支援活動を行っていきます。

その他にスペシャル・オリンピックス日本新潟、東京学館新潟高等学校インターアクトクラブにも引き続き支援活動を行いたいと思います。

今年度残り少ない間ですが、試行錯誤を重ねながら例会を開催して少しでも会員同士が繋がりをまた退会防止に努めて次年度にバトンを渡したいと思います。

最後に早く感染症が収まり、また普通の日常生活に戻ってロータリー活動が普通に出来る喜びを迎える日が来るのを願っております。



COVID-19禍の中で自分ができること

村松ロータリークラブ
会長 土田 隆一

COVID-19が蔓延し始めてからは、ロータリー活動も軒並み中止になりましたが、当クラブでは感染防止対策を徹底し、第17回少年野球大会を昨年10月17・18・24日、11月1日に開催しました。2011年以降福島県のチームを招待し、東日本大震災復興支援チャリティー野球大会として開催していましたが、今大会はCOVID-19禍のため招待できませんでした。

第3分区IMは今年度当クラブがホストですが、日程が二転三転し昨年9月13日→2月13日→6月13日に最終開催日としました。

また昨年度、新人会員は4名増え、これから全会員と国際ロータリーテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」を実践できるような気がしています。例会場では、スペースも広く取り密を避け、シールドを設置し、何か近いのに遠くにいるような気がしていました。やはり会員の中でもCOVID-19禍を警戒し、休会する方もいて例会も少し寂しい状況が続いておりました。

そんな中で、1人のロータリアンとして、また自分自身で何か出来ることはないかと考えていました。私は薬剤師で、町の小さな1店舗の薬局を経営しています。五泉東蒲原薬剤師会の副会長ということもあり、医師会・行政との共同会議への出席の機会があります。そんな時、医師会より薬剤師への集団ワクチン接種時のサポートの依頼がありました。ワクチンの希釈・充填とのことでしたが、私たちは注射に関する手技の経験はほとんどないため、急遽、五泉中央病院に手技講習の依頼・薬剤師会での実技研修等を実行しました。

五泉東蒲原薬剤師会は小さい薬剤師会で、事務局はいません。そこで私はワクチン希釈・充填のマニュアルと薬剤師の4月～10月当番表作成し、行政との会場設備の打ち合わせ等行いました。そのころ急遽5月16日より五泉市の薬局のワクチン接種が可能となり、慌てて五泉市の全薬局の接種希望者リスト及び接種時間の割振表を作成し、第一回目の接種が無事終わりました。

私はこの一連の事業に関わり、このワクチン接種事業を速やかに終わらせ、以前のような状況に戻れるようにする。この事が巡り巡って、以前のようにロータリー活動が行えるようになり、結果、「ロータリーは機会の扉を開く」、「ロータリーで良いことをしよう」に繋がると思います。

6月からは接種時間の延長、祝日も接種する事になりそうです。その時は、また薬剤師会での人員の確保、スケジュール管理が必要となってきます。そしてまだCOVID-19ワクチン接種事業は、始まったばかりです。私とCOVID-19ワクチン接種事業との付き合いは、長くなりそうです。





COVID-19禍でのロータリー活動

阿賀野川ラインロータリークラブ
会長 栗原 修平

COVID-19の感染拡大により、各クラブに於かれましてはロータリー活動に様々な影響が出ていることと思います。

当クラブでも、昨年、今年と台北の姉妹クラブとの国際交流が出来ませんでした。毎年続けてきた活動ができないのはとても残念で、この状況が早く元通りになるようにと願っております。

今年度地区運営方針“ロータリーで良いことをしよう”のテーマのもと、会員数6名という少人数で、このような時でも出来るロータリー活動とは何か？会員で話し合い、当クラブで賛助をしているNPO団体と協同し阿賀野市のこども園で運動遊びの時間を設けました。

専門の指導員のもと、子どもたちは笑顔で楽しく運動を楽しんでいました。このCOVID-19禍で運動する機会が減り、運動能力も低下している子供たちもたくさんいるそうで、NPO団体とこども園からとても感謝されました。私たちにとっては、ほんのささやかな奉仕活動でしたが、大きなことだけではなく、小さいことからできる事をやってみる大切さを改めて実感しました。

地区運営方針を実行することで、自然と、会長テーマの「ロータリーは機会の扉を開く」が実行できたのではないかと考えております。

来年度は、阿賀町のこども園で運動遊びの実施、そして阿賀野市でパラリンピックスポーツ種目「ボッチャ交流会」を計画しております。（地区補助金で計画中）ボッチャ交流会は、健常者も障がいを持った方も楽しめるようにしたいと考えております。

COVID-19禍の中の計画ですので難しさは多いですが、私たちが少しずつ出来る事を実施し、ロータリー活動を広めていきたいと考えております。



COVID-19禍での例会

三条ロータリークラブ
会長 野崎 喜一郎

昨年の7月から始まった例会はコロナ対策のため、一つのテーブルに二人が座り全員前を向いて行ないました。食事を食べ例会に入りました。感染者が減ってくれば4人から5人が向かい合って通常通り食事が出来るだろうと思っていました。しかし、収まる気配はなく12月に入ると三条市にも感染者が多く出るようになって来ました。1月の第一例会は三条市長の卓話が予定されていました。三条RC会員でもある市長と電話で例会に出席できるか確認を取って、OKのもとに参加してもらいました。この頃から例会の開催が頻繁に話題になってきました。国の緊急事態宣言が決定されて1月13日(水)の例会を最後に暫くの間例会を休むことになりました。暫くはWEB例会で会員との連絡を取っていましたが、直接顔を合わせないと例会をした気持ちになれないとの声が上がってきました。役員会でどのように行なったら安心して出来るか検討しました。昼食は弁当にして、例会場で食べないで持ち帰り。例会時間も短縮して行なうことにしました。また、開始時間も12時からに変更しました。この様に試行錯誤しながら例会を行なう異常な1年になっています。

本来、地区大会や、クラブの周年事業、第4分区IM等で大勢のロータリアンと楽しく交流することも叶いませんでした。もちろんクラブの新年会も中止でした。PETS、地区大会、地区研修・協議会もオンラインで行なわれました。

この様なやり方もあるのだと勉強にはなりましたが、私には上手く受け容れられません。今この原稿を書いている時、更に感染者が拡大しているニュースが入ってきています。残りの2ヶ月間どのように例会を行なったらよいか再び不安が襲ってきます。このCOVID-19禍で大打撃を受けた会員もいますが1人の退会者がいないのが幸いです。





COVID-19禍における雑感あれこれ

分水ロータリークラブ
会長 仲村 厚子

まったく得体の知れないCOVID-19禍における佐藤ガバナーの方針を受けて今年度はクラブより感染者を出さない、会員やその家族の健康、安全を守ることをまず念頭におきスタートし努めてまいりました。

分水RCにおきましては、10月に予定されておりました重要な行事の一つであるライラ研修のお役目を頂きましたが、COVID-19 感染拡大防止のため非常に残念ではございましたが中止という結果に至りました。

久住ライラ委員長を中心にして最高の研修の場を提供させて頂くという目標を掲げ成功を祈念しそれぞれ役割分担をして準備を着々と進めてまいりました。オンライン研修という方法もございましたが、ライラ研修という若者が一同に集って交流し親睦を深め一緒に助け合うという研修の性質上、オンライン研修ではその目的を達成することは困難であると考えたからです。楽しみにされておられたであろうロータリアンの皆様には謹んでお詫びを申し上げます。このCOVID-19禍のもとの本来のロータリー活動の難しさを感じた次第です。

また桜がご縁で友好クラブを結んでおります伊那中央RCとの恒例行事の親睦旅行も中止となりました。このようにCOVID-19禍がもたらした影響は例会休会も含め数々ございました。県内、燕市においてもCOVID-19 感染増加に伴い、会食中止ということから4月、5月と休会することも致し方なく、休会に伴いお弁当もなくなったことから会員相互助け合いましょうねという願いをこめながら会員間の事業所で使用できるクラブ独自の1万円分のチケットを発行して会員に配布いたしました。状況は苦しいながらも退会者がいなかったことにほっとしております。

一方、外部卓話におきまして、会員、ゲストの感染対策協力の元、例年と比較いたしまして多くの方々をお招きいたしまして、とても充実した卓話で例会を無事に安全に開催できましたことを嬉しく思っております。特に例会の様子をBSNテレビのニュース番組に放映されまして多くの方々に活動を報告できましたことは、とてもいい機会でございました。

今後は燕市分水地区という小さな町ですが、今年度立ち上げました戦略会議委員会を充実させながら地元の分水高校をはじめとして地域住民に寄り添い社会奉仕活動をしていけたらと考えております。



今年度のクラブ活動について

雪国魚沼ロータリークラブ
会長 富岡 崇

昨年度に引き続き今年度も、COVID-19の感染拡大により当クラブの重要事業が中止となってしまいました。日本においては、全国各地域で感染拡大が収まらず第4波とも言われています。昨年度は当初の例会は一部休会しましたが、当クラブの地域は幸いにも感染者は出ましたが拡大までには至らず、今年度の例会はすべて行い4月からはお昼を「お持ち帰り弁当」とした。

主だった委員会活動については下記の通りですので、ご紹介いたします。

《クラブ奉仕委員会》

ゲストをお招きし、卓話を例会時に実施した。今年度も1～2名を予定している。

《会員増強委員会》

COVID-19感染拡大の中、思うような会員増強ができなかった。

その中でも、ゲスト卓話でお招きした方からロータリーを理解していただき入会に繋がりたい。

《社会奉仕委員会》

計画していた事業「シングルスパーティー」が中止となった。しかし、南魚沼市新型コロナウイルスワクチン接種が始まるのでお手伝いすることとなった。地域ライオンズクラブ、青年会議所、青年会議所OB会を巻き込み協議会を作り支援事業としスタートした。(5月2日より)

総じてCOVID-19の影響で、事業の中止や親睦会の中止や縮小を余儀なくされた。

例会の出席率の向上と活性化、ロータリーを知ってもらう事を目指し、外部からのゲストをお招きしての卓話は当初の目的は達成できたと思う。また、他団体と連携しワクチン接種のお手伝いをする事ができ、地域のお役に立てるものと思っています。



【社会奉仕委員会】
南魚沼市ワクチン
接種支援事業



【クラブ奉仕委員会】卓話ゲスト





感染症蔓延中のRC運営

直江津ロータリークラブ
会長 高橋 孝

感染症蔓延状況が2年目に入っており、社会生活を含めて壊滅的な人的交流の欠如は如何ともしがたく、RC運営も地区関係の催事中止・分区事業も中止と年間スケジュールがスカスカの状況に陥り、入会間もない会員とのロータリー精神の共有にも支障をきたす現状です。

昨年は会員企業の方々のご協力を得て、会員企業の感染下における奮闘やご苦勞を知るべく、企業訪問や、会員相互の親睦を高めるゴルフ大会を催すなどして、クラブ内の活性化を考え、感染状況を見ながらではありましたが、夜の例会も感染防止対策を踏まえて開催出来たことは大変有意義であったと考えます。

また、奉仕活動についても、社会的制限を受ける状況での活動は大変難しいもので、本来であれば協議をしながら行われるべきものですが、参加される方々の現状を踏まえながら、今年度は、直江津港美化整備プロジェクトとして、5月に佐渡汽船モニュメント周辺にハマナスの植栽を行いました。

佐渡汽船モニュメントは当クラブ創立30周年記念事業の一つで上越市に寄贈したものであります。例年であれば、会員事業所や関係団体との連携をもって行うのですが、感染拡大防止の為、限られた中での実施となり、当クラブがスポンサークラブであります直江津ローターアクトクラブとの共同事業として、共に奉仕の理念のもと、ロータリー精神をもって活動出来ました事を大変嬉しく思っております。





COVID-19禍で医師として、 会長として思うこと

糸魚川中央ロータリークラブ
会長 斉藤 隆生

COVID-19禍での会長就任となりましたが、私は内科の医師をしております。日々、発熱患者と向き合いCOVID-19の患者も診察しましたが、COVID-19は発症前から感染力があります。自分自身の感染の危険と、またそれより会員への感染の危険性に変な気を使いました。現在、感染防護の対応も機材も1年前に比べ格段に向上しましたが、感染に対して気を緩めることはできません。そんな中、ロータリークラブ運営でのCOVID-19対策は他のクラブよりかなり厳しくあたってきました。挨拶、報告時もマスクの着用、感染拡大地域に行った場合の2週間の例会出席停止とZOOMでの参加(希望者も)、懇親会の中止、時短例会、例会での食事の中止と弁当持ち帰り等々、以前から実施しておりました。厳しすぎるとの意見もありましたが、この現在の感染の拡大を考えると厳しくしていてよかったと思います。奉仕活動ですが、毎年実施していた新日本フィルのコンサートは中止となり、残念でした。新しい取り組みとして、医学研究支援プロジェクト「Folding@home」への参加、「中学生英語ITOIGAWA発信プログラム」の立ち上げがあり毎年続けて発展させていくつもりです。小学生を対象とした「ぼくの夢、わたしの夢」作文コンテストは例年通り実施され、表彰式は上位3名が作文を発表している動画を流すという形式で行いました。最優秀賞は原発に関するもので、震災後の福島原発の惨状の中、懸命に働いている職員に感銘を受け、原子力を安全に開発したいという内容でした。この作文を不祥事続きの東電刈羽原発に送り、子どもの夢を壊さないようにとお願いしたところ、地域コミュニケーション担当職員から大変感銘を受けた、当クラブに挨拶に来たいとのことで、例会にお招きすることになりました。最優秀賞のお子さんは刈羽原発に見学に行く予定となりました。これを機に東電に少しでも改善してもらいたいものです。

米山奨学生の陸春安さんは、ほとんどZOOMでの参加で、あまり交流が持たなくて残念でした。COVID-19明けにまた親睦を深める予定です。

COVID-19禍の中、医師の私が会長になったことは何か運命的なものを感じます。新しいCOVID-19の情報に接している立場から会長挨拶はほとんどCOVID-19の話で終わりました。ワクチン接種も始まり、COVID-19の収束のために医師として会長として、これからもできるだけのことをしていきたいと思います。

地区主要行事予定6月-7月

2021年5月21日現在

年 月 日			行 事	会 場	
2021年 (R3) 佐藤年度	ロータリー親睦活動月間				
	6月	5	(土)	中条RC創立60周年記念 →縮小開催	中条グランドホテル
		6	(日)	ローターアクト地区協議会	オンライン
		12	(土)	燕RC創立60周年記念式典	燕三条ワシントンホテル
		12~16	(土~水)	RI国際大会	バーチャル形式
		13	(日)	第3分区IM (野崎G補佐・村松)	割烹 松の家
		19	(土)	第4分区IM (丸山G補佐・吉田) →縮小開催	燕市吉田産業会館
		20	(日)	ロータリー財団・学友会総会 →中止	ホテルイタリア軒
		26	(土)	佐藤年度感謝の集い	ホテルイタリア軒
	27~28	(日~月)	クラブ活性化セミナー2021	バーチャル形式	
	7月				
		1	(木)	第1回ガバナー会議/ガバナー・元・次期ガバナー懇談会	グランドプリンスホテル高輪
		4	(日)	全国青少年交換委員長・危機管理委員長 合同会議	
		10	(土)	危機管理委員会	ホテルオークラ新潟
		10	(土)	会員増強セミナー →中止	ホテルオークラ新潟
17~18	(土~日)	インターアクト年次大会 (ホストクラブ:新潟東RC)	ゆいぽーと(国際青少年センター)		

新入会員紹介 (敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
直江津	藤岡 啓一郎	2021.3.25	日本生命保険相互会社 長岡支社 直江津営業部	営業部長	保険業
直江津	矢野 学	2021.4.1	平安セレモニー株式会社	執行役員 次長	冠婚葬祭業
直江津	小河原 仁	2021.4.1	株式会社JERA 上越火力発電所	所長	電気業
直江津	柴野 由紀夫	2021.4.1	信越化学工業株式会社 直江津工場	理事 工場長	化学工業
糸魚川	香坂 昌信	2021.4.1	デンカ(株)青海工場	執行役員 青海工場長	有機無機化学製品製造
長岡	小久保 智之	2021.4.6	損害保険ジャパン(株)	長岡支店長	損害保険
長岡	大塚 誠一郎	2021.4.6	新潟日报社	長岡支社長	新聞発行
長岡	渡辺 雅美	2021.4.6	第四北越銀行	長岡本店営業部長	銀行
長岡	菊島 裕之	2021.4.6	東海日動パートナーズEAST	新潟支店長岡支社長	損害保険
小千谷	白石 雅人	2021.4.15	日本生命保険相互会社	営業部長	保険業
長岡西	松本 克幸	2021.4.22	株式会社 晴耕舎	代表取締役	建設業
高田	林 泰成	2021.4.23	国立大学法人 上越教育大学	学長	大学
長岡東	中村 朝啓	2021.4.28	明治安田生命保険(相)長岡支社	支社長	生命保険業
長岡東	見目 晴幸	2021.4.28	東京海上日動火災保険(株)長岡支社	支社長	生命保険業

訃報 (敬称略)

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
糸魚川中央	和田 護	2021.5.14	和田護司法書士事務所	所長	司法書士	

第2560地区 2020-21年度4月末 会員数およびMy Rotaryアカウント登録率

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会員数			
			2020年 7月1日	4月末 会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	／	-	387	385	38	-2
新発田	0	28.1%	95	96	0	1
村上	1	17.1%	40	41	10	1
水原	3	21.9%	30	32	1	2
中条	2	90.5%	43	42	3	-1
新発田城南	4	16.7%	44	42	4	-2
豊栄	3	13.0%	23	23	4	0
新発田中央	2	4.3%	45	46	4	1
中条胎内	4	58.3%	36	35	7	-1
村上岩船	1	25.0%	31	28	5	-3
第2分区(9クラブ)	／	-	433	443	26	10
新潟	4	22.0%	88	82	2	-6
新潟東	2	14.1%	63	64	8	1
新潟南	4	31.8%	96	109	4	13
佐渡	2	100.0%	6	6	0	0
新潟西	2	53.8%	38	39	2	1
佐渡南	2	12.8%	40	39	4	-1
新潟北	2	30.0%	39	40	0	1
新潟中央	2	36.4%	20	22	0	2
新潟万代	3	52.4%	43	42	6	-1
第3分区(6クラブ)	／	-	102	98	4	-4
新津	3	12.5%	16	17	0	1
村松	4	66.7%	12	12	0	0
五泉	4	0.0%	12	11	1	-1
白根	3	30.0%	30	29	1	-1
新津中央	4	30.4%	26	23	2	-3
阿賀野川ライン	3	0.0%	6	6	0	0
第4分区(11クラブ)	／	-	369	372	27	3
三条	3	11.9%	57	59	0	2
燕	3	5.6%	36	36	3	0
加茂	4	9.1%	30	33	5	3
三条南	4	13.6%	45	44	2	-1
分水	2	79.3%	30	29	4	-1
見附	3	9.1%	22	22	1	0
吉田	3	6.7%	26	30	4	4
三条北	4	0.0%	60	56	2	-4
巻	4	0.0%	23	24	2	1
田上あじさい	4	14.3%	7	7	1	0
三条東	4	6.3%	33	32	3	-1

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会員数			
			2020年 7月1日	4月末 会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	／	-	306	303	27	-3
長岡	3	84.8%	49	46	4	-3
柏崎	3	2.4%	42	42	0	0
長岡東	3	27.3%	57	57	3	0
柏崎東	2	18.2%	46	44	3	-2
栃尾	4	12.0%	24	25	0	1
長岡西	3	19.6%	52	51	5	-1
柏崎中央	0	23.1%	36	38	12	2
第6分区(6クラブ)	／	-	130	131	11	1
十日町	1	29.0%	29	31	3	2
小千谷	3	10.0%	27	30	3	3
雪国魚沼	4	20.8%	24	24	3	0
十日町北	1	0.0%	21	20	1	-1
津南	1	17.4%	23	20	1	-3
越後魚沼	4	16.7%	6	6	0	0
第7分区(8クラブ)	／	-	337	333	23	-4
高田	2	30.8%	76	78	5	2
直江津	3	33.3%	71	70	6	-1
新井妙高	2	12.1%	32	33	1	1
糸魚川	3	81.0%	41	42	3	1
高田東	3	62.9%	36	35	2	-1
糸魚川中央	4	50.0%	33	30	0	-3
頸北	2	20.0%	10	10	1	0
越後春日山	0	100.0%	38	35	5	-3

クラブ数	56 クラブ
7月1日 会員数	2,064 人
4月末 会員数	2,065 人
女性会員数	156 人
純増減会員数	1 人
My Rotaryアカウント登録率	28.9 %

※3月末からの訂正

3月末日会員数

村上岩船RC【29名⇒28名】

越後春日山RC【36名(うち女性6名)⇒36名(うち女性5名)】

2560地区合計【2,049名⇒2,048名】

Rotary
Region 1 & 2 & 3コーディネーター
NEWS

2021年6月号 No.1

発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

「地区・クラブにおける継続性」

日本の3地域において、2019～2020、2020～2021年度(第3地域は2018～2019年度から)に「戦略計画」についてのアンケートを当該年度のDGEにお願いしてご回答をいただきました。

このアンケートの3地域のデータについては、近いうちに皆様方にお示しする事が出来ると思いますが、今回のコーディネーターニュースでは、第3地域の結果に基づいて述べさせていただきます。なお、本年4月19日に開催された第1, 2, 3地域合同会議でのデータのすり合わせではほぼ同様の結果ではあったと感じています。

2020～21年度では地区戦略計画(ビジョン)委員会は、地域内では約91%の地区が委員会活動を開始しています。2018～19年度の調査では、8地区が委員会を設立し活動開始、2地区が設立はしているが未活動、1地区がまだ委員会を発足していない、という結果でした。2019～20年度の調査では、発足して活動している地区が8地区、発足しているが活動していないが3地区、という結果でした。紙面の関係でお見せすることが出来ませんが、年度ごとに回答が一致している地区は7地区です。4地区は統一された3年間の統一した進展がありません。このことは地区戦略計画委員会が持続性をもって運営されていない可能性が充分あるものと考えます。そうであればこの点の修正をしていくことをお考えいただきたいと思います。

‘20～’21年度で地区ビジョン、中長期目標を決定しているのは7地区、検討中が4地区でした。これも‘19～’20年には決定していたのに、‘20～’21年には検討中となっている地区が2地区見られました。勿論、もしこの地区がビジョン・中長期計画の見直し・再検討をしているのであれば、これは頼もしいものかと考えます。

各地区内のクラブの戦略計画委員会の設置状況に目を移してみましよう。‘20～’21年度でクラブ戦略計画委員会(別名称でも可)の設立は50%以上が6地区、50%以下が5地区です。各クラブの委員会の設立は、50%以下のクラブでも‘18～’19年度より着実に委員会設置されているクラブの増加が見られているようです。まだ委員会の設置が整っていないクラブは、担当のガバナー補佐、あるいは地区戦略計画委員会へご相談の上、クラブ会員基盤を堅実なものにして戴きたいと存じます。

地区内でクラブビジョン或いは中長期計画を決めておられる割合が50%を超えている地区は、残念ながら2地区のみに終わっています。これはクラブの委員会の皆様にお力を注いで戴き、是非“クラブの3年5年10年先のクラブのあり方”、“皆様方のクラブの発展”をお考えの上、“クラブのビジョン”をお考え下さい。

ここでもう一度申し上げますが“クラブのビジョン”というのはその年度の“会長のテーマ”“地区ガバナーのテーマ”ではありません、先程申し上げた“自分のクラブの未来の姿”なのです。この中には“未来の奉仕活動を如何にするのか?”“自分のクラブの会員数をどの程度にするのか?”“クラブの資金を如何にするのか?”などなど様々なことが考えられるでしょう。是非クラブで検討をしてみてください。

2012年RI D2660DGを務めさせて戴いた後、地区戦略計画委員会の設立に始まり、地区内クラブに戦略計画委員会設立に力を注いできました。

ロータリー公共イメージコーディネーター補佐、ロータリーコーディネーター補佐、ロータリーコーディネーターを務めさせて戴き様々な方に教えられ、様々なことを見せて戴きました。

各クラブが創立時のロータリーに入会した時の“ワクワクした気持ち”を若い世代に伝え、自分が行ってきた奉仕活動でえた“ワクワクとした気持ち”を若い世代に伝えて下さい。

私がいつも「ロータリーを皆様の時代に終息させて良いのですか？私はロータリーは未来に続くものだと考えています。そのためには“若い血の導入”が不可欠です」と申し上げています。

この素晴らしい組織を新しい仲間を加え皆様と共に守っていきましょう！！

第3地域 ロータリーコーディネーター 高島 凱夫 (大阪中之島RC)



ロータリー NEWS

コーディネーター

2021年6月号 No.2

発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

新型コロナウイルスの感染が始まって以来、約1年半となりますが、まだまだ収まる気配すらありません。

首都圏、関西圏、中部地域などの大都市圏に限らず、全国各地に蔓延しております。

私の居住する四国、愛媛県のような地方都市でもクラスターが発生し、しかも変異株が増加している状況であります。この今まで経験したことのないようなコロナ禍のなかで、私達は企業活動、家庭生活を、また、ロータリーの奉仕活動をどのように過ごしていけば良いのか、今こそロータリアンとしての能力を発揮しなければならない時だと痛感しております。

ロータリーの奉仕活動としては、各地域、各地区、各クラブ共大きな試練にさらされていると思います。

不要不急の外出の自粛、大人数での会合の自粛などの社会的要請に応えるため、諸事業の延期、中止など大変ご苦勞をなさっていると思われまます。当地でも多数のクラブが例会そのものを休会せざるを得ない状況で、ロータリーの基本であるクラブ会員同士の親睦、交流さえままならない状況であります。

しかし、こういう時こそ新しい発想で活動を続けて行くべきであると思います。

例会を休会にするクラブもあれば、オンライン例会を開催しているクラブもあると仄聞しております。

知恵をだし合って新しい例会のありかたに挑戦してみるのも面白いと思います。

地区活動としても、各種の方法があろうと思います。

ちなみに、当地区ではガバナーのリーダーシップのもと、連日奮闘している医療現場へ、少しでもお役に立ちたく、パルスオキシメーターを四国4県の医師会に寄贈することと致しました。

各地区でも、それぞれ各事業を実施されている事と思います。

お互いにコロナに負けないよう頑張りましょう。

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 桑原 征一（新居浜RC）



1. 軍政続くミャンマーから学友レポート

今年2月1日から、毎日の悲しい出来事に、ああこれが夢だったら……と考えぬ日はありません。心が壊れそうになるのを耐え、平和と安全を祈る日々です。

あの日から私たちの生活は一変しました。今まで毎日やる事がたくさんありましたが、できる事がほんの僅かに限られ、何をするにも不安がつきまといます。インターネットは企業用と光ファイバーしか繋がらないので、多くの市民は外部の情報を得ることができません。私の教室では、せめて子供たちの教育だけは守りたいと、オンライン授業を続けていますが、それも困難な状況です。最低限の買い物や銀行へ行くといった外出すら安全ではありません。



ある日のデモの様子（学友が参加しているわけではありません）

今までたくさんの苦勞を乗り越えてきましたが、今回ほど辛いものはありません。一番辛いのは全面的に自由がなくなった事です。自由に話せない、自由に動けない、自由に教育が受けられない、自由に働けない、自由に人を助ける事ができない、自由にボランティアができない――。

学友会メンバーとは全員は連絡が取れていませんが、皆無事だと思います。ただ、最近是有名人、医者、ボランティア団体などが狙われ、逮捕されたりしています。集まると目をつけられるため、今ミャンマーではロータリークラブの例会や活動、米山学友会活動を行うことができません。互いの連絡も控えている状況です。

ミャンマーの若者は勇気があり、心優しく、賢い人が多いです。私はこの国の未来のために、これからもミャンマーで次世代の若者や子供を育てる仕事を続けて行きたいです。

国内は経済状況が悪化し、支援が必要な国民が増えています。ミャンマーの平和な日常を皆の力で取り戻し、今後もロータリーの活動がミャンマーで継続できるよう願っています。皆様の応援にいつも心から感謝しています。

（匿名希望 2010-11年度米山奨学生より）

2. 被害を受けた家庭へ物資などを提供

ミャンマーの現状に心を痛めた大阪在住のロータリアンが支援を申し出たことを受け、在日ミャンマー人学友（匿名希望 2018-20年度米山奨学生）が家族の協力のもと、現地で被害を受けた家庭約 30 軒に米などの食料と生活必需品

を提供したほか、父親を亡くした高校生へ1ヶ月分の学費を寄付しました。



寄付者の氏名が添えられた物資を受け取る人々



3. 「学友の集い」で米山をアピール！

4月10日、第2580地区（東京）が主催する第2回「学友の集い」が開かれ、学友やロータリアンなど97人が会場に集まったほか、オンラインでも28人が参加しました。

このイベントは、ロータリー学友（青少年交換、インターアクト、ローターアクト、RYLA、ロータリー財団奨学金、米山奨学金などの修了生）が、プログラムや年代を超えて交流できる場として企画されたもので、第1回目は2019年5月に実施されています。

当日は、野生司義光ガバナー、そして第2750地区から参加した青柳薫子青少年奉仕委員長の挨拶に続き、各プログラムの学友代表がそれぞれの活動について報告しました。ロータリー米山奨学生学友会（東京）からは、理事長のイット チャンソクピアさん



（2010-11／東京田無RC）が登壇し、学友会の活動を報告しました。その後、学友らが中国クラシックダンスと朗読、バイオリン、ピアノや二胡による演奏、モンゴルや沖縄民謡の独唱、三味線と笛による日中伝統楽器合奏などを次々

と披露し、会場を沸かせました。最後は、米山学友・現役奨学生27人全員が立ち「上を向いて歩こう」を合奏・合唱しました。

前理事長の梁一強さん（1999-2001／東京四谷RC）は、「昨年、日本のロータリー100周年を記念して企画した『インターナショナル

サロン2020』が、新型コロナウイルスのため中止となったが、そこで披露する予定だった演目を発表する機会をいただき、とても感謝している。今後も学友が母国を紹介できるような交流の場を作っていきたい」と、語りました。

4. 寄付金速報 — 4月単月はやや回復 —

4月までの寄付金は前年同期と比べて0.7%減（普通寄付金：0.4%減、特別寄付金：0.8%減）、約790万円の減少となりました。ただ、4月単月の寄付額を見ると過去3年間で最も多く、復調への兆しも見えます。全国的に例会を休会し

ているクラブが多い中、ロータリアンの皆様からのご支援に深く感謝申し上げます。まだ収束の見通しが立たず、今後の不安も残りますが、これからも当奨学事業へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

5. 『ロータリーの友』で学友の寄稿を連載中！

『ロータリーの友』に毎号、「よねやまだより」のページがあることをご存じでしょうか？

今年度からは好評の新シリーズ、「米山から世界の町へ」を連載中です。米山学友が自分の住む町の紹介や自身の近況をつづりながら、日本のロータリアンへ向けたメッセージを書いています。海外との往来が制限されている昨今ですが、近い将来、ぜひ学友の母国や地元を訪ねてみてはいかがでしょうか。現地から、そうしたレポートを書いてくれる学友がいましたら、

seminar@rotary-yoneyama.or.jp（広報担当：野津）までご連絡ください。

